

明日にむかって

発行 社会福祉法人陽光会 編集「明日にむかって」編集委員会 発行日 2023年3月10日
住所 〒173-0032 東京都板橋区大谷口上町5-3 ☎03-3959-1675(陽光会本部)
社会福祉法人陽光会 HP <http://youkou-kai.com>

99号

若いころ、父親と職場の先輩から「飲み席では政治と宗教と野球の話はするなよ。気をつけろ」と教えられた。「社会人ってそういうものなのか、くだらないな」と思いつつも頭の片隅に入れていた。しかし、30代半ばとなった私は、その教えを“そんなこと言っている場合じゃない!!”と焦っている。毎日のように岸田政権のナンセンスな政策を聞いてうんざりし、政府と戦うメディアも見当たらない。“自分だけが幸せならいい”“楽しければいい”そんな社会のムードと、簡単に手に入る娯楽に飲み込まれていく日常の私。今こそ、世間話のようにみんなと政治や子どもたちの未来について話したい。WBC(ワールド・ベースボール・クラシック:野球世界一を決める国際大会)の大谷選手、ダルビッシュ選手の活躍も話したい。これはとても楽しみだ。とりあえず明日は職場で好きな中華料理でも聞くところから始めよう。(T・A)

共育講座◆桜台第二保育園

2022年9月17日

子どもも大人も自分らしく生きるために ◆多様性の理解と子育て

講師: 星山麻木先生

社会福祉法人陽光会では長年「職員と保護者の方が一緒に子育てについて学び合うこと」を目的とした共育講座に取り組んでいます。陽光会が桜台第二保育園の運営を受託して7年目。保護者の方々と信頼関係を積み上げてきたことを実感し、今年初めてZoomを使用した共育講座を開くことができました。保護者8名、職員19名の参加がありました。

講師は以前職場研修にお招きした、明星大学教育学部教授の星山麻木先生にお願いしました。先生は一貫した支援ができる人材育成を目指した「子ども家族早期発達支援学会」を設立されています。実際に職場研修を受けた職員から「家庭での子育ての不安な気持ちが軽くなった」「自分のことに関して、人との差を『個性』だと受け止めようと思えた」という意見があり、保護者の方々と職員の価値観を共有したいと、講師を依頼しました。

個性の受容

当日の共育講座ではまず、「障がいの有無にかかわらず、人間にはひとりひとり

合理的配慮

また、今回の講座では『合理的配慮』という子どもへの支援を学



星山麻木先生 (ほしやま あさぎ)
明星大学教育学部教育学科教授。保健学博士。日本音楽療法学会認定音楽療法士。一般社団法人星と虹色な子どもたち代表、一般社団法人子ども家族早期発達支援学会会長。著書に『ちがうことは強いこと』(河出書房新社、2021)、『星と虹色な子どもたち』(学苑社、2020) 他多数

このロープを飛び越えられるかな。3歳児の子どもたち。桜台第二保育園の園庭で



続 子どもの世界

～北町保育園～

- 2 歳児** — 大人も3歳児健診?
Aくん「〇〇先生来ないね」
保育士「今日は健診だから来ないんだ」
Aくん「3歳児健診かー」
- 3 歳児** — 保育もお仕事です
保育中の子どもの会話。
Bちゃん「先生って、お仕事何してるの?」
保育士「えっ? 先生がお仕事だよ」
Bちゃん「えーっ! そうなの?」
- 4 歳児** — 将来設計
家庭のできごと(連絡ノートより)。
Cちゃん「ママ、Cがスターになったらキムタクに会わせてあげる」
- 5 歳児** — 名前にもリズムが大切
班の名前を話し合う3人グループ。
Dくん「〇〇って名前はどよう?」
Eちゃん「えーっ、リズムがないから……」
Fくん「〇〇は?」
Eちゃん「リズムがほしいなあ」



▼運動会に向けて「マットとり競争」の練習。5枚のマットを並べ、たくさん取ったほうのチームが勝ち! みんな一生懸命。5歳児

▲3歳児クラスの子どもたちは三輪車が大好き。桜台第二保育園園庭で



共育講座を受けた保護者の方からは、「みんな違って当たり前で、その子のペースがある」という話を聞き、もつとじつくり子どもと向き合って一緒に成長していきたいと思った。「他の家庭と比べてしまいがちな不安になることがあるが、そういう部分に

親子でいっしょにあそびましょう

●陽光保育園●

2023年度も「砂遊び」や「リズム遊び」などを中心に公園ではできない遊びを計画しています。親子で気軽に遊びにきてください。無料です。

- ただし、新型コロナウイルス感染状況により、延期や中止、受け入れ人数を制限することもあります。
 - 参加ご希望の方は、実施予定日の3日前までにお電話ください。
- 場所 陽光保育園(板橋区大谷口上町23-1) ☎3956-1068
時間 午前9時30分～11時(赤ちゃんは10時30分まで)
対象 0歳児～就学前のお子さんと保護者

- *動きやすい服装で、タオルと着替えをご持参ください。
- *受け入れ時、検温と手指消毒を実施しています。発熱や咳などの風邪症状がある方は参加をご遠慮ください。
- *天候によっても内容を変更することがあります。
- *0歳のお子さんは、室内にて、赤ちゃん体操・あやし遊びなどでゆったり過ごします。

2023年度◆年間予定

4月18日(火)	5月16日(火)	6月20日(火)
7月18日(火)	8月15日(火)	9月19日(火)
10月17日(火)	11月21日(火)	12月19日(火)
1月16日(火)	2月20日(火)	3月5日(火)

【予定】9月:健康相談(看護師) 11月:「食」の相談(栄養士)

お知らせ
陽光保育園では、「赤ちゃん相談」も行っています。対象は、妊娠中または生後4か月までのお子さんをお持ちの方。保育園には栄養士、看護師、保育士など、相談できる職員がたくさんいます。妊娠中の心配事のほか、赤ちゃんの夜泣き、ミルクの量、おむつかぶれや湿疹など……、何でもご相談ください。2023年度の日程や連絡先は右の「親子でいっしょに遊びましょう」と同じです。お気軽にご連絡ください。

陽光保育園の一時保育
●月～金曜日の9時～17時(土・日・祝日・年末年始休)、一日1～8時間、ご希望の時間帯でご利用できます。
●1歳以上で、離乳の完了しているお子さん(板橋区発行)「すくすくカード」をご利用できます。
●保護者の就労・求職・通院・職業訓練・通学・看護・介護などのほか、出産・冠婚葬祭などの緊急時や子育て不安、リフレッシュなどでもご利用できます。
●緊急時以外は、なるべく10日前までにお申し込みください。事前に面接をして、利用日・利用時間を予約していただきます。
●詳しくは陽光保育園までお問い合わせください。
☎0659-010608
(受付時間10～17時)

乳児へ



いっぴい
作・絵: せなけいこ
福音館書店刊/24頁

幼児へ



はじめてのおつかい
作・筒井頼子
絵: 林 明子
福音館書店刊/32頁

大人も



手ぶくろを買いこ
作: 新美南吉
絵: 黒井 健
偕成社刊/32頁

ごあんない
母狐は、冷たい雪で牡丹色になった子狐の手を見て、街へ買い物に行かれます。店のおじさんは、きつねが手袋を買いたい来たとき、きつねも、何事もなかったかのようになさな手袋を売ってくれます。その優しさと、人間を恐れない子狐の純正さに心うたれます。人間もきつねも子どもを思う気持ちは同じ。心を温かく包んでくれる名作です。

- 陽光保育園
- お別れ会 3月8日(水)
- 卒園式 3月18日(土)
- 北町保育園
- お別れ会 3月9日(木)
- 卒園式 3月11日(土)
- 桜台第二保育園
- 卒園式 3月18日(土)
- お別れ会 3月22日(水)
- 板小あいキッズ
- あいキッズ入会説明会 3月10日(金)
- 2分の1卒会 3月14日(火)
- 全国的に新型コロナウイルス感染者数は減少し、制限も緩和されていますが、保育園など小さな子どもたちの生活の場では、未だ不安な状況でもあります。各行事にお客さまをおよびすることは難しいと考えております。ご理解ください。
- * 後援会の行事等は未定です。

BOOKコーナー
宗形博美

子どもの成長を感じたとき

拡大版 8

●陽光保育園●

みんなと一緒が楽しい

保育士となり3年目、今年度はフリー保育士として0歳児から5歳児の保育に入り、個々の育ちとともに集団が大きくなっていく姿を見てきました。

進級したばかりでどこか落ち着かない様子の4月。乳児クラスでは、絵本の読み聞かせにひと苦労していました。まだ遊びたい、えほん見たくない、という主張が保育室内をくぐる走り回る姿としてあらわれ、絵本を見ていた他の子どももついて追いかけて「にげなげ」に発展。絵本を見た子が他の子につられず、保育者の位置を変えてみたり、絵本を読み聞かせる声かけのタイミングを工夫してみたりと試行錯誤していました。

ところが秋になると、絵本を読む前の手遊びに「へ」と書きつけられ、絵本を楽しくむかってくるようになり、クラスのみんなで絵本を楽しく見られるようになっていきました。

●桜台第一保育園●

大きく心が成長した1年間

桜台第一保育園に勤務して2年目の保育士です。昨年度担任していた2歳児から持ち上がりで3歳児の担任をしています。

3歳の子もたちは「ピタゴラスやデュプロブロックで街や建物をつくるのが大好きです。そのなかで、自分がつくりたいものと友だちのつくりたいものが違っていて、意見がぶつかり合うこともあります。そのような場合、2歳児のときには言葉で自分の気持ちを伝えられず手がでてしまうこともありました。ところが今では、隣で遊んでいる友だちが自分のつくっているところに入ってきて、「今頃は駐車場つくってるんだ。だからここにブロック置かないで」「じゃあ（自分のつくった）消防署と合体しようよー」「いいねー」と、こんなふうに言葉で自分の思いを



ピタゴラスやデュプロで話し合いながら構造物をつくっていく3歳児。ピタゴラスはカラフルな平面の玩具で、磁石でくっつく。



1歳児も友だちと一緒に絵本を楽しめるように、コマ回しに夢中。5歳児クラスの子もまた絵本を見るときに走り回っていた子も、また遊びたいと主張していた子も、担任の手遊びや声かけに惹きつけられ、絵本の展開を期待するようにつめるようになりました。みんなと一緒だと楽しいと思える経験を積み重ねたことで、楽しいことに向かっていく力がついてきたのではないかと感じました。



進級当初、一人ひとりのペースや思いがそれぞれだった子どもたちが同じ方向を目指し、集団が大きくなったことをうれしく感じました。（陽光保育園保育士 尾内綾子）

伝え、相手の思いを聞いたうえで、お互いが納得できるように話し合いで解決できるようにになりました。

トラブルが起きたときには、大人が間に入ってそれぞれ思いを聞いて受け止め、言葉にして伝えてきました。少しずつ、相手の思いを知り、自分の気持ちだけでなく、人の気持ちを考えることができるようになってきました。言葉で思いを伝えられるようになり、共通のイメージをもって遊ぶことで、友だちと遊ぶことがより楽しくなってきたようです。

子どもたちの心の成長を大きく感じる1年でした。（桜台第二保育園保育士 萩原遥）

●板十小あいキッズ●

ケンカをしたって大丈夫

先日、1年生のAさんに「いつもケンカしたときに止めてくれたり、お話ししてくれたり、ちゃんと注意してくれてありがとう。みんなのことをいつも思ってくれているの、わかっていてよ」と、突然そんなことを言われました。

4月ごろは、新しい環境に不安でいっぱい、何を聞いても押し黙ってしまい、優しくしてくれる大人の陰にいつも隠れていたAさん。でも徐々に慣れてくると、元来の元気いっぱい、元気が見えるようになっていきました。



あいキッズ前の校庭で、思いっきり体を動かす。野球もサッカーも大好き

●北町保育園●

0歳児の子どもたちも1年間で大きく成長

用務の仕事の一環として、朝礼の報告や洗濯物をたたんで各クラスの部屋に持っていくことがあります。

入園したばかりの4月～5月ごろは、「おはよう」と0歳児室に行くとき、子どもたちは私の顔を見ただけで「誰なの？ 見たことない人だ」という顔で担任のところへ急いで行ったり、なかには泣いてしまう子どももいました。0歳児の部屋から廊下を通ってホールへ遊びに行くときなどに会っても、不思議



お友だちと一緒に絵本を楽しんだり（上）、お手玉やブロックなどを食べ物に見立てて遊んだり（下）お友だちとの関わりが増えた0歳児の子どもたち

なりました。お友だちもできて、ケンカをするときもありません。Aさんだけでなく、自分の気持ちがあうまく伝わらなったり、相手の言うことを受け止められなかったり、自分はどうしたいかと思わないと思っても、相手を傷つけてしまったら、そういうケンカは誰にでも経験があると思います。あいキッズでも、そういうことがあるたびに、指導員が間に入って気持ちを聞いたり、ちゃんと言葉で伝えられるよう支援したりしています。

そういうことを通し、子ども同士で自分の気持ちを伝える大切さや人の気持ちを考えていることを学び、成長しているのだと思っていました。それが、大人の気持ちまで慮ってくれていたなんて。驚きと同時に、その気持ちがあうれしく、2年生になるAさんの姿が楽しみなりました。

（板十小あいキッズ指導員 木村陽子）



高く、高く、背丈よりも高くブロックを積み上げる。2歳児



自分たちでつくった荒馬を身にまとい、思いっきり踊る5歳児クラスの子どもたち。ラッセラー

そんな顔をしている子どももいました。でも毎日顔を合わせていると、少しずつですが笑顔を見せてくれるようになってきました。

最近では、部屋へ入るとうれしそうに近づいてきてタッチを求められます。それも1人や2人ではなく次々とです。Aくんは両手に持って遊んでいたオモチャを置いて、急いで来てくれ、タッチを要求してくるほどです。「またね」という「バイバイ」と手を振ってくれます。春、人見知りをして泣いていたころと比べると、気持ちを通わせることができ、とても癒される瞬間です。

先日の夕方、玄関で見かけたBくんは、両手を広げ、こちらに来てくれました。それも満面の笑みを浮かべて。顔なじみになり心を許してくれるようになったことがうれしく、成長した姿に感じます。

1年間で心も身体も大きく成長した姿を見せてもらっています。（北町保育園用務職員 横山順子）

戦争と私★

そして未来へ

A・I

無辜（むこ）の人々を死に追いやる戦争に、絶対反対です

私は戦後間もないころ静岡で生まれました。いわゆる団塊の世代の最後のほうに属します。このたび、「戦争と私」の原稿を依頼されて、家族から聞いた戦争の話思い出しました。

まずは私の母から聞いた話です。私の母は、11人兄弟姉妹の5番目でした。母の古い家の柱には羅針盤がかけられ、そばに2人の遺影が並んでいました。1人は母の長兄。出征するとき「お前にあげる」と、自分で作った魚の形をした貝殻細工を渡してくれたそうです。もう1人は母のすぐ下の弟。15歳で衛生兵として出征し、肺病で亡くなってしまいました。母の父は船乗りで、次男と一緒に台湾や沖縄に行き、南太平洋上の島々に食料を運んでいたそうです。いつ敵襲があるかわからない危険な仕事でしたが、無事、戦中を生き抜きました。

次に私の父の話です。父は5人兄弟姉妹の長男。父の弟は、漁船の徴用船に乗り、沖縄近海を偵察中に爆撃されて沈没し、亡くなってしまいました。村の漁船の何隻かは、同じように徴用されて撃沈され、戦死された方が多くいたそうです。父は出征して満州で終戦になり、シベリアに1年間抑留されて帰ってきました。戦争の話は聞いても何も語ろうともしませんでした。私の叔母はそんな父を見て、「性格が変わった」と言っていました。

次に私の夫の家族の話です。夫の両親は中国ハルビンで親族が営む仕出し屋で働いていました。終戦間近に引き揚げた夫の叔母は、子どもと一緒に乗り込んだ船が爆撃を受けて亡くなってしまいました。夫の伯父は引き揚げるとき中国人に子どもを1人託すことを相談までしましたが、全員連れて帰ってきたそうです。夫の両親は、上の子を中国で亡くし、幼かった次女をしっかりと抱いて引き揚げたそうです。

戦中・戦後と、もっとつらい経験をされた方もたくさんいたと思います。戦争は反対です。これからもずっと反対です。ロシアは直ちに爆撃を止めてください。核使用など許しません。ウクライナの人々に平和が一日も早く訪れることを祈っています。私は若いころより「軍事費より社会保障の予算の増額を！」と署名に取り組んできましたが、現在政府は防衛費を増やそうとしています。怒りです。世界に誇れる平和憲法を守り、未来につなげていくことが、私たち戦後生まれの課題ではないかと思えます。（板橋区在住）

子そだて奮闘記

今だからこそ大切にしたいこと

我が家には、3歳の娘と昨年生まれた息子がいます。娘は気になることがあると、「あれはなに？」「なんで？」と、たくさんの質問が出てきます。ガソリンスタンドに行くとき、「なにをするの？」「ガソリンってなに？」と聞くので、「車が動くようにガソリンっていうご飯を食べるんだよ」と答えるなど、試行錯誤しながら、3歳の子どもでもわかりやすいように伝えていきます。

先日、幹線道路を歩いていると、横断歩道にある音響用押しボタンに気がつき「これなに？」と聞くので、「目が見えない人が押すボタンで、信号が青になったら音が鳴って、渡っていいですよーって教えてくれるの」と伝えました。そのときの娘は「ふーん……」。

次に、人通りの多い歩道では点字ブロックの上を意地になって歩くので、危ないなと思った私は、「これは目が見えない人が棒を持って歩くときに、黄色の凸凹にするので、道を教えてくれるんだよ」と伝えました。

いつもなら引き続き気にせず歩く娘ですが、このときは何も言わず、スッと端を歩き始めました。音響用押しボタンや点字ブロックの意味を理解し、自分のなかで納得したのかな？と感じました。

後日、2人で歩いていると、「ママー！そこは目が見えない人の道路だから、歩いちゃダメだよ」と教えてくれました。私の足元を見ると点字ブロックの上……。3歳の子どもなりに理解し、それを覚えていたのでしょうか。「そうだったね、ごめんごめん！」と伝えると、誇らしげな表情をする娘でした。

家事や下の子の世話などに追われていると、「これなに？」と聞かれても「あと言葉、物事など、興味をもったことを、聞いたり、見たりすることで、たくさんのことを吸収していく時期だからこそ、丁寧に関わっていききたいなと感じた出来事でした。（陽光保育園2歳児クラス保護者 新妻美保）